

2017年度(2018年3月期)の概況

シャープ株式会社及び連結子会社 3月31日に終了した各連結会計年度

2017年度の業績

日本では、企業収益や雇用情勢が改善し、個人消費や輸出は持ち直すなど、緩やかに回復しました。海外では、米国で着実な回復が継続し、ユーロ圏でも次第に改善する一方、中国でも持ち直しの動きが続くなど、総じて緩やかに上昇しました。

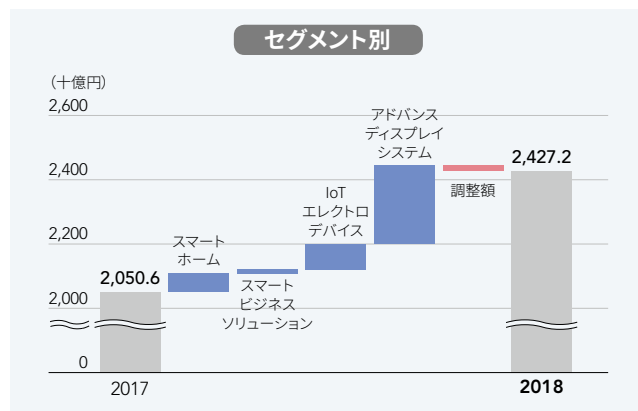
こうした中、シャープは、引き続き構造改革に取り組むとともに、中期経営計画に基づき、「人に寄り添うIoT」「8Kエコシステム」をキーワードに事業拡大に取り組みました。

その結果、シャープの売上高は、アドバンスディスプレイシステムなど全セグメントで増加し、2兆4,272億円(前年度比18.4%増)となりました。営業利益は、アドバンスディスプレイシステムが大幅に改善し、901億円(前年度比44.3%増)、経常利益は893億円(前年度比256.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は702億円(前年度は248億円の親会社株主に帰属する当期純損失)となりました。

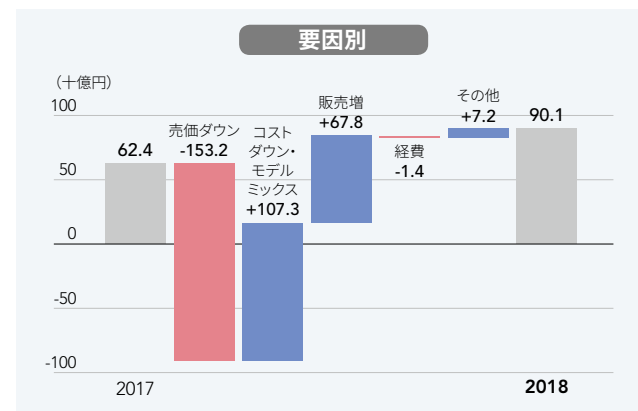
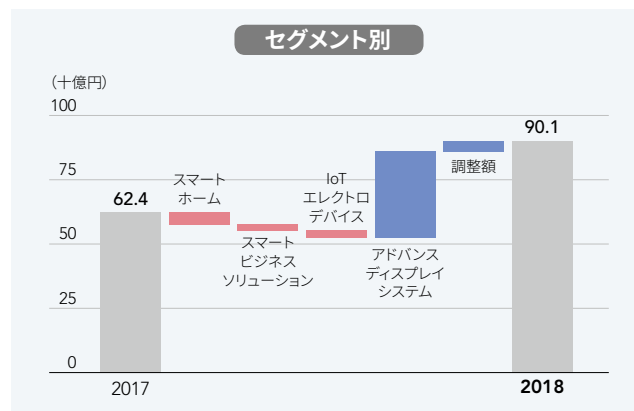
また、こうした業績の改善や財務の状況、今後の事業展開などを総合的に勘案し、2011年度以来6年ぶりとなる配当を実施しました。

- ✓ 2017年度の業績は、**前年度から大きく改善**
- ✓ 売上高は、前年度比18%の増収、**全セグメントの売上が伸長**
- ✓ 利益は、年間を通じて順調に推移、**リーマンショック前となる2007年度以来、10年ぶりに全四半期が最終黒字**
- ✓ 業績や財務の状況、今後の事業展開等を勘案し、**2011年度以来6年ぶりに配当を実施**

売上高 増減分析

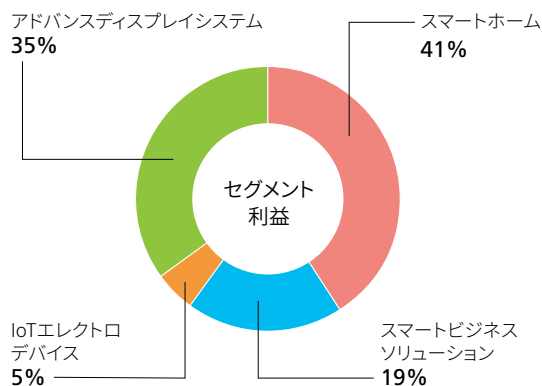
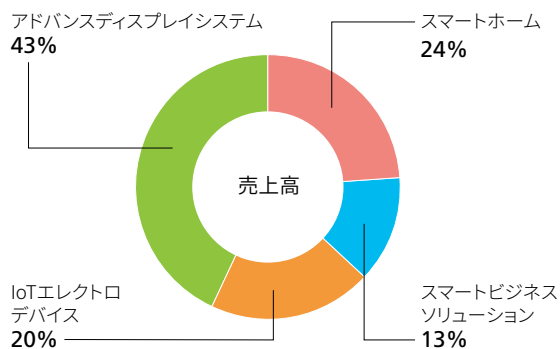


営業利益 増減分析



2017年度(2018年3月期)の概況

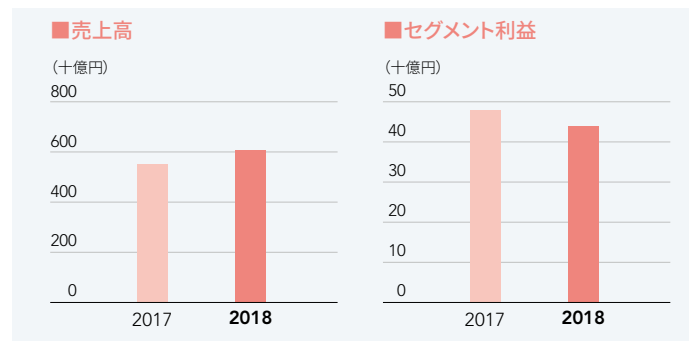
セグメント別売上高・営業利益



- ・売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を含んでおり、円グラフの売上高構成比は、これを基に算出したものです。
- ・セグメント利益はセグメント間取引の調整前の金額です。円グラフのセグメント利益構成比は、これを基に算出したものです。
- ・2018年3月31日に終了した連結会計年度より、セグメント区分を変更しております。これに伴い、2017年3月31日に終了した連結会計年度についても、変更後のセグメント区分に基づき表示しています。

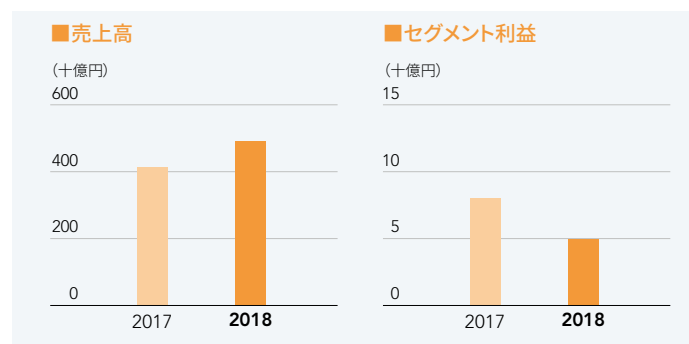
スマートホーム(Smart Homes)

携帯電話機、電子辞書、電卓、ファクシミリ、電話機、ネットワーク制御ユニット、冷蔵庫、過熱水蒸気オープン、電子レンジ、小型調理機器、エアコン、洗濯機、掃除機、空気清浄機、扇風機、除湿機、加湿機、電気暖房機器、プラズマクラスターイオン発生機、理美容機器、太陽電池、蓄電池等



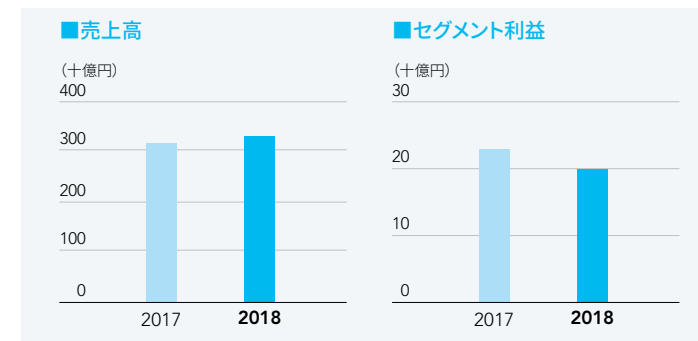
IoTエレクトロデバイス (IoT Electronics Devices)

カメラモジュール、カメラモジュール製造設備、センサモジュール、近接センサ、埃センサ、CMOS・CCDセンサ、半導体レーザ、車載カメラ等



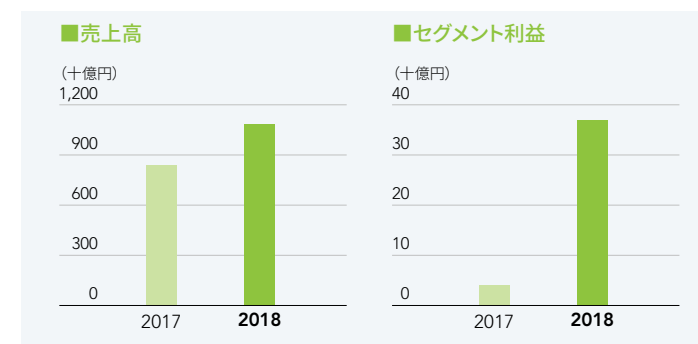
スマートビジネスソリューション(Smart Business Solutions)

POSシステム機器、電子レジスタ、業務プロジェクター、インフォメーションディスプレイ、デジタル複合機、各種オプション・消耗品、各種ソフトウェア、FA機器、洗浄機等



アドバンスディスプレイシステム(Advance Display Systems)

液晶カラーテレビ、ブルーレイディスクレコーダー、IGZO液晶ディスプレイモジュール、CGシリコン液晶ディスプレイモジュール、アモルファスシリコン液晶ディスプレイモジュール等



2017年度(2018年3月期)の概況

2017年度-2019年度 中期経営計画

2017年5月26日に公表した「2017年度-2019年度 中期経営計画」では、「8KとAIoTで世界を変える」という事業ビジョンを掲げています。

そして、この事業ビジョンのもと、「人に寄り添うIoT」「8Kエコシステム」を実現する企業へのトランスフォーメーションと事業拡大を進め、次の100年に向けた礎を築くことをめざしています。

これに向け、事業・戦う市場・オペレーションの3つのトランスフォーメーション、具体的には、「ビジネスモデルの変革」「グローバルでの事業拡大」「経営基盤の強化」を図るとともに、「独自技術」や「人材」の徹底強化にも取り組んでいます。

・ビジネスモデルの変革

従来のハードを中心としたビジネスモデルから、ハードに加え、サービスやプラットフォーム、さらにはエコシステム全体を通じて、お客様に新たな価値を提供する企業への変革を進めます。

・グローバルでの事業拡大

商品事業においては、海外市場を中心に、カテゴリー・ラインアップの拡大、顧客・販路の拡大を、デバイス事業においては、革新デバイスの創出を梃子にした顧客開拓を進めます。こうした取り組みを通じて、グローバルに事業を拡大します。

・経営基盤の強化

「ビジネスプロセスを抜本的に見直す」「コスト意識を大幅に高める」「信賞必罰の人事を徹底する」の3つの方針に沿って、抜本的な構造改革を推進し、支出の抑制を徹底するとともに、高効率なオペレーション体制の構築を進めました。今後、さらなる構造改革を実行し、いかなる環境変化にも動じない、より筋肉質な経営基盤の構築を進めます。

「AIoT」は、シャープ株式会社の登録商標です。

